

運航費算出資料

1. ダイヤ変更に伴う収支の変更について

今回（第5回審議会）の全体収支での変更点は以下の通りである。（全体収支表・第3案を参照）

A 運航費用 11. 船費 (1) 船員費 について

午前中2区間同時運航＋午後V字航路の3班体制（14人）から、大島航路・地島航路でそれぞれ7時間45分勤務の4班体制（職員数20人）への変更に伴う労働時間の増加及び船員の増加により、およそ3400万円の増額となる。

これにより、大島航路、地島航路の船員費は、それぞれ以下のように変更となる。

<新ダイヤ（第4回審議会時点）>

	大島航路損益（新ダイヤ）	地島航路損益（新ダイヤ）	試算上の合計
船員費	80,423,213.-	38,720,387.-	119,143,605.-

<新ダイヤ（第5回審議会修正）>

船員費	103,830,347.-	49,989,933.-	153,820,280.-
-----	---------------	--------------	---------------

A 運航費用 7 燃料潤滑油費 について

地島航路で月2回・1日2便フェリー「おおしま」を運航することにより、以下の増額となる。

<新ダイヤ（第4回審議会時点）>

	地島航路損益（新ダイヤ）
燃料潤滑油費	11,815,523.-

<新ダイヤ（第5回審議会修正）>

燃料潤滑油費	11,914,398.-
--------	--------------

B 営業費用 4.減価償却費 (2)船舶 について

地島航路で使用する「ニューじのしま」の減価償却が今年9月で終了となるため、来年以降はゼロとなる。

<新ダイヤ（第4回審議会時点）>

	地島航路損益（新ダイヤ）
減価償却費 (2) 航路	4,818,535.-

<新ダイヤ（第5回審議会修正）>

減価償却費 (2) 航路	0.-
--------------	-----

全体として、現行ダイヤと第5回審議会の新ダイヤの収支を比較すると、

収入が約930万円増加

支出が約3300万円増額

と試算される。

2. 全体収支表

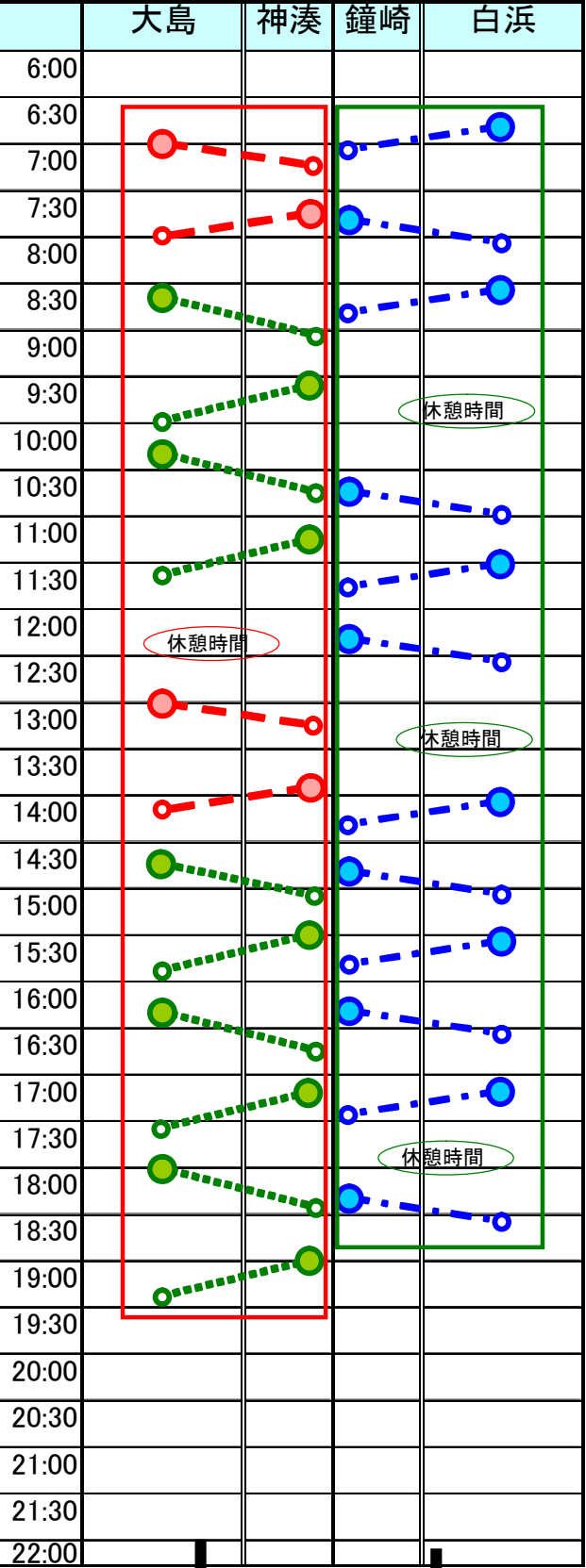
宗像市 渡船事業 全体収支表（第3案） ※20人体制での試算

2010. 11/10時点

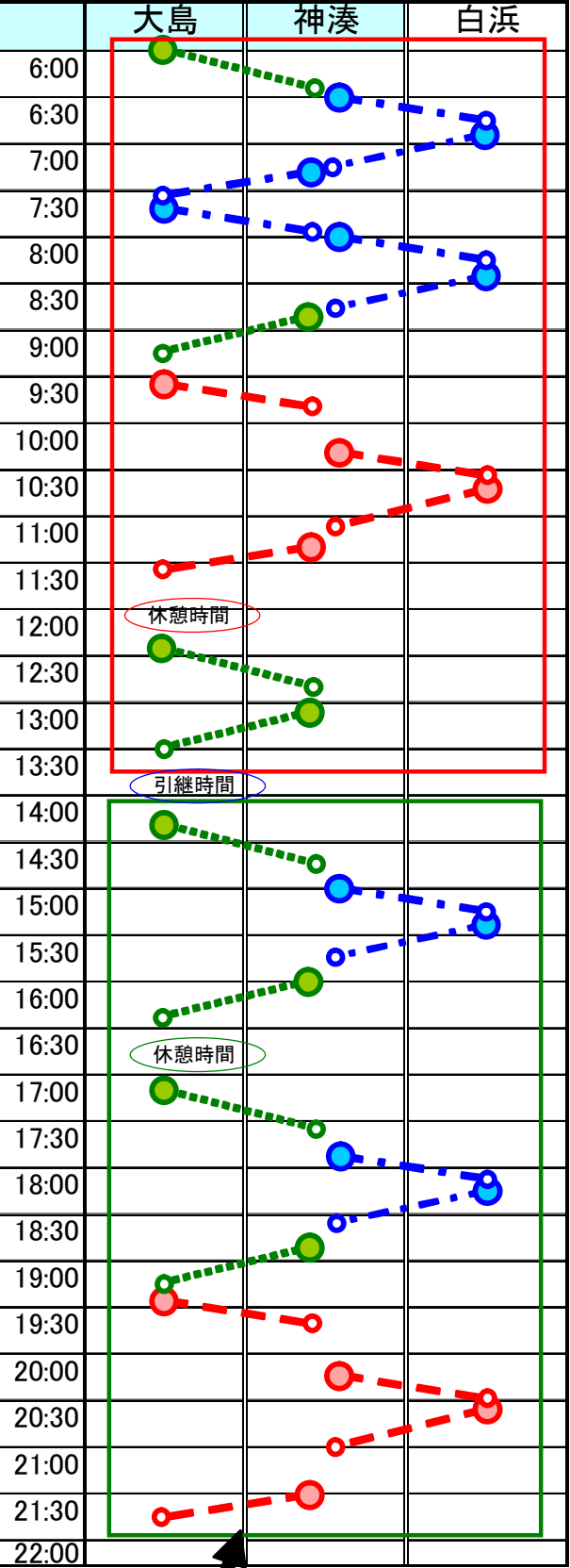
	大島の現状航路損益 (平成20年10月～平成21年9月)	地島の現状航路損益 (平成20年10月～平成21年9月)	現状の合計 (A)	大島の航路損益試算 (新ダイヤ)	地島の航路損益試算 (新ダイヤ)	試算上の合計 (B)	差分 (B－A)	備考
1. 収 益								
A 運 航 収 益	138,937,934	23,472,384	162,410,318	145,972,929	25,774,899	171,747,828	9,337,510	
1. 旅客運賃	88,100,980	21,139,190	109,240,170	95,135,975	23,441,705	118,577,680	9,337,510	別紙参照（大島：500円→550円、地島：新運賃）
2. 手荷物運賃	1,543,630	1,040,150	2,583,780	1,543,630	1,040,150	2,583,780	－	
3. 小荷物運賃	2,668,400	58,900	2,727,300	2,668,400	58,900	2,727,300	－	
4. 自動車運送運賃	40,345,950		40,345,950	40,345,950		40,345,950	－	
5. 貨物運賃	3,954,460	1,039,800	4,994,260	3,954,460	1,039,800	4,994,260	－	
6. 郵便航送料	1,542,540	194,344	1,736,884	1,542,540	194,344	1,736,884	－	
7. 雑収	781,974		781,974	781,974		781,974	－	
B 営 業 収 益	716,415	8,510	724,925	716,415	8,510	724,925	－	
1. 航路付属施設収入	256,510		256,510	256,510		256,510	－	
2. 雑収入	459,905	8,510	468,415	459,905	8,510	468,415	－	
収 益 計	139,654,349	23,480,894	163,135,243	146,689,344	25,783,409	172,472,753	9,337,510	収入増額分 約9 3 3 万
2. 費 用			－			－	－	
A 運 航 費 用	150,398,954	64,042,981	214,441,935	169,113,299	78,164,140	247,277,439	32,835,504	
1. 旅客費	2,529,515	425,828	2,955,343	2,529,515	425,828	2,955,343	－	
(1) 旅客歩金			－			－	－	
(2) 傷害保険料	912,715	262,343	1,175,058	912,715	262,343	1,175,058	－	
(3) 雑費	1,616,800	163,485	1,780,285	1,616,800	163,485	1,780,285	－	
2. 手荷物取扱費	62,871	0	62,871	62,871	0	62,871	－	
3. 小荷物取扱費	13,268	0	13,268	13,268	0	13,268	－	
4. 自動車運送取扱費	250,265	0	250,265	250,265	0	250,265	－	
5. 貨物費	13,268	0	13,268	13,268	0	13,268	－	
(1) 貨物積卸費	13,268		13,268	13,268		13,268	－	
(2) 貨物歩金			－			－	－	
(3) 貨物辯金			－			－	－	
(4) 雑費			－			－	－	
6. 郵便物取扱費	0	0	－	0	0	－	－	
7. 燃料潤滑油費	28,158,630	9,481,856	37,640,486	22,674,876	11,914,398	34,589,274	-3,051,212	新ダイヤでの2島への各船舶の運航により算出
8. 養缶水費	0	0	－	0	0	－	－	(大島：おおしま4、しおかぜ3)
9. 港費	6,037,670	186,150	6,223,820	5,571,580	0	5,571,580	-652,240	(地島：しおかぜ4、じのしま2)
(1) 税金及び手数料			－			－	－	※地島へ月2回・1日2便おおしま乗り入れて約10万増額
(2) 水先及び係留料手数料	6,037,670	186,150	6,223,820	5,571,580	0	5,571,580	-652,240	大島航路分は、おおしまの運行回数減少分、係船
(3) 代理店手数料			－			－	－	料を削減。地島航路分は全額削減可能
10. 雑費	105,318	26,690	132,008	105,318	26,690	132,008	－	
11. 船費	113,228,149	53,922,457	167,150,606	137,892,338	65,797,224	203,689,562	36,538,956	
(1) 船員費	79,166,158	38,115,166	117,281,324	103,830,347	49,989,933	153,820,280	36,538,956	船員20人の船員費合計を現状コスト割合で按分
(2) 船舶備品費	0	134,400	134,400	0	134,400	134,400	－	(船員の増加および2区間同時運航の変更により
(3) 船舶消耗品費	1,067,054	216,396	1,283,450	1,067,054	216,396	1,283,450	－	第1案より約4600万円船員費増加)
(4) 船舶修繕費	32,344,967	15,381,450	47,726,417	32,344,967	15,381,450	47,726,417	－	
(5) 雑費	649,970	75,045	725,015	649,970	75,045	725,015	－	
B 営 業 費 用	70,033,488	31,686,627	101,720,115	82,478,854	19,977,143	102,455,997	735,882	
1. 保険料	1,341,378	500,595	1,841,973	1,341,378	500,595	1,841,973	－	
(1) 船舶	1,341,378	500,595	1,841,973	1,341,378	500,595	1,841,973	－	
(2) 航路付属施設			－			－	－	
2. 税金	4,468,939	621,943	5,090,882	4,694,059	621,943	5,316,002	225,120	
(1) 船舶			－			－	－	
(2) 航路付属施設			－			－	－	
(3) 事業税	4,468,939	621,943	5,090,882	4,694,059	621,943	5,316,002	225,120	
3. 利子	4,621,557	900,685	5,522,242	4,621,557	900,685	5,522,242	－	
(1) 船舶	2,500,664	900,685	3,401,349	2,500,664	900,685	3,401,349	－	
(2) 航路付属施設	2,120,893		2,120,893	2,120,893		2,120,893	－	
4. 減価償却費	18,188,210	11,888,855	30,077,065	30,424,591	324,392	30,748,983	671,918	
(1) 航路開設費	601,718		601,718	601,718		601,718	－	
(2) 船舶	17,130,932	11,564,463	28,695,395	29,367,313	0	29,367,313	671,918	じのしまの減価償却費が今年で最終、以後はゼロ
(3) 航路付属施設	455,560	324,392	779,952	455,560	324,392	779,952	－	しおかぜの減価償却費が2年目に入り増額
5. 賃借（備船）料	1,434,160	0	1,434,160	1,418,025	0	1,418,025	-16,135	
(1) 船舶			－			－	－	
(2) 航路付属施設	1,434,160		1,434,160	1,418,025		1,418,025	-16,135	新ダイヤでの大島港浮桟橋・可動橋使用料を算出
6. 航路付属施設費	19,974,728	614,259	20,588,987	19,974,728	469,238	20,443,966	-145,021	地島航路分を鐘崎待合所の経費分削減
7. 店費	20,004,516	17,160,290	37,164,806	20,004,516	17,160,290	37,164,806	－	
費 用 計	220,432,442	95,729,608	316,162,050	251,592,153	98,141,283	349,733,436	33,571,386	増額 約3 3 0 0 万
3. 差引当期（純損失）	△ 80,778,093	△ 72,248,714	-153,026,807	△ 104,902,809	△ 72,357,874	-177,260,683		

3. 収支比較表

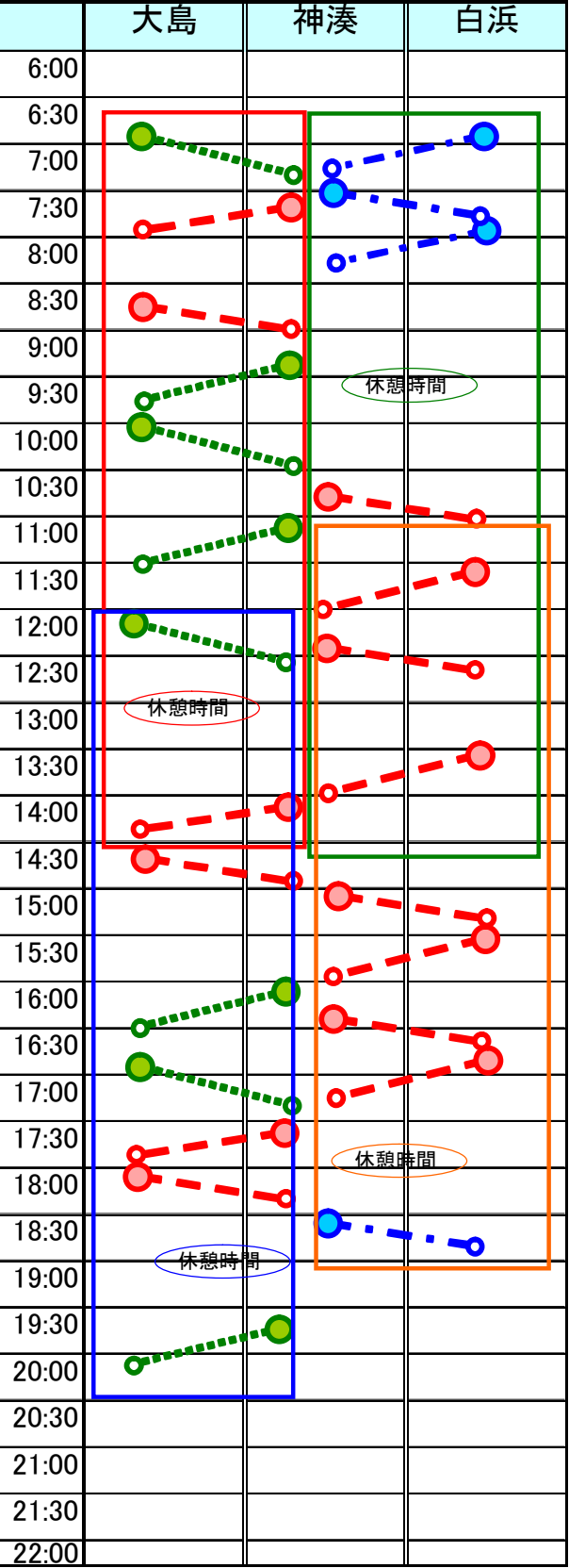
○現行ダイヤ



●新ダイヤ案(第2回審議会)



◎新ダイヤ案(第5回審議会)



<左記の各ダイヤでの収支の違いについて>

●現行ダイヤと新ダイヤ（第2回審議会）

現行ダイヤから新ダイヤ（第2回審議会）への収支の変更は、V字航路による時間外労働のない2交代制への移行により、人件費（時間外労働の削減や臨時職員の削減）で、約1千万円の削減となっている。

●現行ダイヤと新ダイヤ（第5回審議会）

第5回審議会（案）では、別紙・運航体制の資料の通り、赤枠・青枠・緑枠・オレンジ枠の4班による20人体制での運航となる。

その場合におけるコストは、船長級6人、機関長級7人、甲板員級7人の体制と想定すると（全て有資格者）、船長級で、「約840万円（平均年収）×6人＝約5040万円」、機関長級で、「約800万円（平均年収）×7人＝約5600万円」、甲板員級で、「約670万円（平均年収）×7人＝約4700万円」と試算される。

合計すると、およそ1億5300万円となる。

このため、現行ダイヤと比べると、約3600万円の人件費の増額となり、全体では、減価償却費の支払い終了もあるため、約3300万円のコスト増額となる。（前頁の全体収支表参照）

凡例

- 発着
- 旅客船しおかぜ
- フェリーおおしま
- 旅客船ニュービのしま

人件費約1千万円削減
（全体で約600万円削減）

人件費約3600万円増額
（全体では、約3300万円増額）